

## 第107回HSE (Health care Sales Engineer) セミナー開催のご案内

2018年の終わりが近づいてきました。調剤報酬改定情報のバタつきから始まった一年でしたが、改定の結果よりも薬局経営の外部環境の変化が多い一年だったのではないのでしょうか。「連続薬価改定」「遠隔服薬指導」「グレーゾーン解消制度」、そのほか天災も多い一年となりました。改めて企業継続に向けた様々な仕組み作り、体制づくりを考えるきっかけになったと思います。

11月はこれから求められる業務、経営、マインドを一緒に考えてみたいと思います。

1 講義目には、日本尊厳死協会の理事長をお呼びしました。「尊厳死＝安楽死」と考える方が多いと思いますが、それは大きな勘違いです。自分らしく生きる、選択することを「リヴィングウィル」と言います。いま日本医師会でも積極的に発信されている言葉です。私たちが出来る「自分らしく生きる」(尊厳の尊重)ためのサポート方法を考えていきたいと思います。

2 講義目には「保険外収入」をどう作っていくのかのヒントを探りたいと思います。薬価引き下げ、調剤報酬削減と、保険事業の行く末は暗雲立ち込めています。これは避けることが出来ない環境であり、薬局という業態から何が出来るのか。新しいジャンルを開拓しなければ経営の継続ができません。これからは薬局という幹から枝葉を伸ばしていくことを考える必要があります。調剤報酬に頼らない経営の実現は可能なのか、いや実現させなくてははいけません。

3 講義目には多くの企業が悩む「在宅医療の効率化」について考えたいと思います。「在宅医療は費用対効果が悪い」そんな声をよく聞きます。効率化は調剤業務だけでなく、ルート作成、スケジュール調整、書類作成と多岐に渡ります。最近では施設調剤の個別対応に関するトラブルなどもよく耳にします。いましっかりとした地盤を作らなくては、今後の超高齢社会に対応することが出来なくなってしまいます。今回は在宅医療に携わる数多くの経験から、今抱えている問題・課題、成功例・失敗例を皆さんに共有していただき、解決策を見出したいと思います。

HSE セミナーは業界唯一の薬局経営セミナーと自負しております。引き続き皆様と一緒に「本物の薬局・薬剤師」を考えていきたいと思います。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

**12月の開催日は14日・15日になります。**

【開催日】 2018年11月16日(金) 13:00~17:00

≪17:15より懇親会(会費5,000円)を企画しております≫

17日(土) 9:00~12:00

【内 容】

● 11月16日(金)

「地域包括ケアとエンドオブライフケア」

岩尾 総一郎 氏 (日本尊厳死協会理事長 慶應義塾大学医学部客員教授)

「保険外ヘルスケアビジネスの動向」

紀伊 信之 氏 (株式会社日本総合研究所 シニアマネジャー)

● 11月17日(土)

トレンド分析(押さえどころ!)

駒形 和哉 氏 (株式会社Kae マネジメント 代表取締役)

「いかに在宅業務をマネジメントしていくのか?」~効率性、継続性の観点から~

孫 尚孝 氏 (株式会社ファーマシィ 医療連携部部長)

【参加費】 50,000円(消費税別)

\* 上記参加費は単月参加の費用となります。

\* 継続の場合は御相談下さい。

【場 所】 ・ リロの会議室 田町 「会議室D」

東京都港区芝5-26-24 田町スクエア5階

<参加対象者>

医療機関、介護・福祉事業、薬局の経営者、製薬企業マーケティング担当者

医薬品卸経営相談及び経営企画担当者、医療・介護事業参入予定者など

株式会社<sup>カエ</sup>Kaeマネジメント

連絡先: TEL 03-5829-6659 FAX 03-5829-6679 [seminar@kae-management.com](mailto:seminar@kae-management.com)

主催: 株式会社Kae マネジメント 後援: 一般社団法人 日本薬局経営学会

## <第 107 回 HSE セミナー 講演紹介>

### ■テーマ：「地域包括ケアとエンドオブライフケア」

#### ■講師：岩尾 總一郎 氏（日本尊厳死協会理事長 慶應義塾大学医学部客員教授）

地域包括ケアの一つのゴールに「在宅での看取り」があります。厚生省の調査では自宅で最期を迎えたいという患者が 55%いるのに対し、実際に在宅での看取り率は 12.8(2013 年)と大きなギャップがあります。「最後は自宅で」という患者の思いに対して、支えられない地域の体制や、家族の負担があります。「だから病院で…」ここにも一つの忖度が生まれています。尊厳(意志)の尊重は、薬局に求められるポリファーマシーや医薬品の変更にも大きく関わってきます。自己満足的な医療から、患者中心の医療への再構築がいま求められています。患者に寄り添い理解し最適な提案をする。これもかかりつけ薬剤師の業務なのではないでしょうか。

#### <講師紹介>

1973 年慶應義塾大学医学部卒業、同大学院にて医学博士号取得後、テキサス大学留学。81~85 年産業医科大学助教授。その後、厚生省(当時)入省。88~90 年佐賀県出向(保健環境部長)、本省に戻り環境庁(当時)室長、厚生省疾病対策課長、研究開発振興課長、厚生科学課長など 6 つの課長を経て 2001 年環境省環境保健部長、02 年自然環境局長、03 年厚生労働省医政局長。05 年退官後、WHO 健康開発センター長、国際医療福祉大学副学長を歴任し、現在は慶應義塾大学客員教授。日本尊厳死協会へは 06 年入会、08 年常任理事、10 年副理事長、12 年より第 6 代日本尊厳死協会理事長。現在に至る。

### ■テーマ：「保険外ヘルスケアビジネスの動向」

#### ■講師：紀伊 信之 氏（株式会社日本総合研究所 シニアマネジャー）

薬局は調剤以外に何ができるのでしょうか。多くの薬局が保険調剤に頼るこの現状から脱皮しなくてはなりません。そのためには既存の資源を分析し、どう発展させていくのかを考える必要があります。安易な介護事業への参入は、保険収入からの脱却とは言えません。いま求められている「保険外収入」への糸口を探したいと思います。厚生労働省が「公的保険外サービスの参考事例集」というもの発行していることはご存知でしょうか。なぜそんなことをするのか。それは「今のうちに準備をしておきなさい」という警告としてとらえることができます。医療・介護の多くの企業が今考えている保険外収入の事例から薬局が取り組める事業を考えたいと思います。薬局が地域のハブとして、高齢者と各事業をつなぐ役割になってもいいのではないのでしょうか。

#### <講師紹介>

1999 年京都大学経済学部卒業後、(株)日本総合研究所入社。介護・シニアビジネスをはじめとした B2C 分野でのマーケティング、新商品・新サービス開発などの各種コンサルティングに従事。厚生省老健事業にて公的介護保険外サービスの調査・研究を担当。在職中、神戸大学にて MBA 取得。

### ■テーマ：「いかに在宅業務をマネジメントしていくのか？」～効率性、継続性の観点から～

#### ■講師：孫 尚孝 氏（株式会社ファーマシー 医療連携部部长）

「在宅は儲からない」そんな経営者の声をよく聞きます。果たして本当にそうなのでしょうか。効率化をきちんと検討しているのでしょうか。在宅件数が増えると個人への負担が重くなり、周りへの負担増へと連鎖していきます。従業員のモチベーションにも差が出てきて、業務の悪循環も始まります。いかに仕事(役割)を振り分けるのかということが重要になります。また必要に応じて「断る勇気」も必要になります。「儲からない」ではなく、「儲かるため」の仕組み作りを考えるステップに来ているのではないのでしょうか。想いだけでは継続はできません。「儲けるため」の在宅ではなく、在宅医療を持続可能な業務とするための効率化を考えていきたいと思います。

#### <講師紹介>

2001 年 京都薬科大学卒業、三重県の調剤薬局勤務を経て 2003 年に株式会社ファーマシー入社。2015 年 4 月 1 日より在宅推進部部长に就任。薬剤師会だけではなく地域の医師会や病院などでも講演を行う。また、積み重ねられた経験やノウハウから在宅医療に関連する研修会や教育教材の監修も行う。医師会や、基幹病院等と協同し在宅推進に向けた支援活動も行っている。

## 第 98 回「薬局未来塾」開催のご案内

薬剤師の業務が見直されています。2015 年に出された「患者のための薬局ビジョン」では「対物業」から「対人業務」への転換が求められています。また、来年の薬機法改定を審議している厚生科学審議会では「薬剤師の対人業務を推進するための方策」がテーマの一つにあげられています。これらは何を意味するのでしょうか。まさに「調剤料」の是非が問われており、薬を取りそろえる「ピッキング」に何らかの影響がもたらされそうです。その資料には「計量・混合調製後の薬は、調製前の状態も含め、もはや何かを判断することはできず、誤った調製であれば、その結果患者に危害を及ぼすおそれがあること」と記載されており、錠剤の取り揃えについては触れていません。果たしてピッキング行為というグレーゾーンはどうなっていくのでしょうか。いま「調剤料」が大幅に引き下げられようとしているように感じます。

さて、薬剤師の業務をどこまで職員に委託できるでしょうか。巷では「パートナー制度」として資格も出ているようです。保健所の指導では薬剤師以外の人の調剤室への入室を禁じるところもあります。また、事務職員の白衣（ピンクも含む）使用を禁止する話もあります。では、いかに「対人業務」に時間を割けばいいのでしょうか。今回は、そんな事を少し皆様と考えてみたいと思います。

日時： 11月17日（土） 午後12時15分から14時  
（昼食を取りながらのランチ形式です。）

会場： リロの会議室 田町 「会議室D」  
東京都港区芝5-26-24 田町スクエア5階

会費： **3,000円**（\*会費は食事代と会場費となっております。）  
※参加費は当日会場にてお支払いをお願いいたします。

テーマ： 薬剤師業務を見直す

- ・「対物業」から「対人業務」への転換とは？
- ・事務職員が出来る業務を考える
- ・薬剤師業務の効率化
- ・かかりつけ薬局に向けた動きを先取りする

駒形 和哉 氏（株式会社 Kae マネジメント 代表取締役）

**※HSE セミナーに参加していない方でも参加歓迎いたします。**

10年先を読むキーポイント

- ・「患者のための薬局ビジョン」とは、現状は患者のためになっていない反省なのか？
- ・2017年度の「骨太の方針」にある「患者本位の医薬分業に向けて」とは何を意味する
- ・増えすぎる医薬品の問題から多過ぎる薬局の問題に変わった
- ・「薬中心の業務」から「患者中心の業務」への転換は調剤料を直撃するのか
- ・薬価の毎年改定は業界全体を揺るがす変化となる
- ・2025年には全ての薬局が「かかりつけ薬局」になっている
- ・「かかりつけ薬剤師指導料」が薬局経営の柱になる
- ・「健康サポート薬局」に込められた国の期待とは何か
- ・2016年度は“減収減益”に陥った潮目の年
- ・厚生労働省を動かす「閣議決定」に将来が見えてくる
- ・早すぎるICT化が医療の仕組みを変える
- ・超高齢者社会は「通院が困難なもの」と「認知症」への対応に注目
- ・地域包括ケアは在宅による多職種連携がカギを握る
- ・ドラッグストアの処方せん獲得が激化する
- ・M&Aがどこまで寡占化を進めるのか

# 第 107 回セミナー参加申込書

FAX : 03-5829-6679

E-mail : [seminar@kae-management.com](mailto:seminar@kae-management.com)

フリガナ	
氏名	
会社名	
部署名	
住所	〒
携帯電話番号	
メールアドレス	
備考	

※ 単月の方に後日御請求書を送付させていただきます。

**次回、開催日は2018年12月14、15日になります。**

## 懇親会のご出欠

懇親会のキャンセルにはキャンセル費をご請求させていただきます。

御出席	御欠席
-----	-----

## 薬局未来塾のご出欠

御出席	御欠席
-----	-----

### ■会場

\* 2017年10月より会場を変更しました \*

### リロの会議室「田町」会議室D

東京都港区芝5-26-24  
田町スクエア5F (旧 東京機械本社ビル)

JR田町駅より徒歩3分  
都営三田線・浅草線田町駅A3出口徒歩2分



※未来塾単体のお申し込みの方は、「未来塾のみ」と備考に記載くださいませ。